

STEP BY STEP

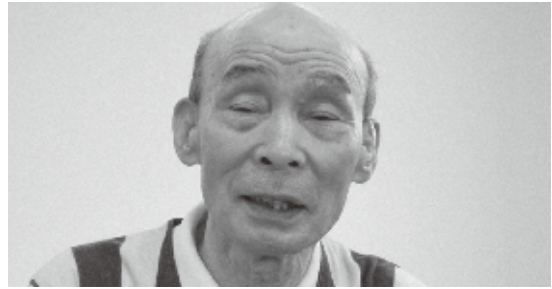
ようやく過ごしやすい季節になりましたが、今年も台風で甚大な被害が出ました。被災された方にはお見舞い申し上げます。

第2次岸田内閣改造で法務大臣に葉梨康弘氏が選出されました。警察官僚出身ですが、誰であろうと冤罪を救済するための再審法改正に真摯に向き合っていたいただきたいと思います。

袴田事件は「味噌漬けの5点の衣類」の血液の色をめぐり、検察が「赤みは残る」との主張を変えずに、まったく無駄な時間を浪費しています。双方の法医学者の証人尋問を行い、実質的な審理は終了しました。あとは年内にも最終意見書を提出する方針が確認されました。

狭山事件は第3次再審請求を申し立てて16年ですが、8月29日に証人尋問の請求を行い大詰めを迎えました。事実調べ、特に被害者の万年筆のインク成分を分析して、捜査側の証拠のねつ造を明らかにした下山鑑定人の尋問を確実に実施させるための緊急署名を開始しました。

http://www.b11.gr.jp/doc/sayama_saishin_kinkyuushomei_kojin_202209.pdf



アフリカの大地を駆け巡る動物たちを見るのが夢だと語っていた石川一雄さん。しかし、最近はそのことを語らなくなった。



WBCから名誉チャンピオンベルトを贈られた袴田巖さん

袴田さんも石川さんも50年をはるかに超えて闘っています。ご高齢になっても未だに殺人犯の汚名を背負わされて、つくづく冤罪とは残酷なものです。先進国並みの再審法があったら、お二人ともとうに無罪になっていたでしょう。当会も国会議員への働きかけをしていきます。(事務局 野島美香)

『琵琶湖バラバラ殺人事件』

ゆずりはともよし
杠共芳

※芳の字は正しくは草かんむりではなく十が二つ並ぶかんむりです。

琵琶湖バラバラ殺人事件の猟奇犯として、現在、岡山刑務所に服役中の焼き肉店経営をしていた杠共芳と申します。4年前のある日、まだ就寝中だった私は突然やってきた警察官5～6名に叩き起こされました。何の説明もなく、「裁判所より令状が出ているので家宅捜査します。警察署に連行します」とのこと。2018年9月12日でした。草津署では「バラバラ殺人はあなたがしたんでしょう」「お金盗ったでしょう」と責め立てられました。

友人が亡くなったことを耳にして、驚きのあまり心臓はドキドキ、目の前が真っ暗になりました。嘘発見器にかけられ、その結果も知らされず、何らかの方法で殺害して死なせた、と決めつけられました。死体損壊、死体遺棄、殺人、更に窃盗容疑で別件逮捕。それから1年1ヶ月もの間、拘留されました。全く身に覚えがなく、事件の真相は何ひとつ解明されないままです。いつ、どこで、どのようにして、という理由も示されず、動機もないのに、「何らかの方法で死亡させて殺害した」という摩訶不思議な有罪判決が出ました。裁判というのは犯罪行為を明らかにし、その結果、量刑を決めるものではないんですか？ 犯罪行為があったかどうかも分からない、謎だらけなのに「何らかの方法で死亡させて殺害した」と決めつけられて殺人犯にさせられてしまいました。こんなおかしいことがあるのでしょうか。

十数年来の友人で、頼る相手がなく、年金も少なく、毎月の生活が成り立たなかった友人は、衣食住も含めて私に頼る毎日でした。たびたび語っていた帰郷の想い。四国へ帰って、家、土地を処分すれば大金が入ると話していました。お盆過ぎに一緒に四国へ行く計画を練っておりましたのに、どうして私が彼を殺めることができるのでしょうか。

刑事も検察官も「何らかの方法で友人を殺害し、遺体をバラバラに解体し、自分の車で運搬